

公益財団法人 山口育英奨学会

事業報告

(平成31年4月1日から令和2年3月31日まで)

1 当法人の現況に関する事項

(1) 事業の経過およびその実績

(単位:千円)

事業別	予算額	決算額	実施割合
育英奨学事業	77,051	70,035	90.89%
学術研究等助成事業	25,401	25,451	100.20%
資料館庭園運営管理事業	44,327	41,770	94.23%

(2) 直前3事業年度の財産および状況

(単位:千円)

区 分	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (当該事業年度)
経常収益	148,812	156,452	161,669
評価損益等調整前 当期経常増減額	12,929	20,087	△604
当期経常増減額	266,055	△456,712	△570,896
正味財産期末残高	4,887,253	4,339,962	3,680,963

(3) 主要な事業内容

事業	主要な事業の内容
①育英奨学事業	学生に対し奨学金の無利子貸与 奨学生集会を開催し学生の指導育成と相互交流
②学術研究等助成事業	大学等における学術の研究者に対して助成金を給付 自然環境保護活動を実施する団体に対しての助成金給付 当会の事業目的に合致する公益事業活動をする団体への助成
③資料館庭園運営管理事業	郷土資料館の運営および一般公開 庭園・山林・遊歩道の整備と自然環境保全活動

(4) 従たる事務所の状況

名 称	所在地	事業内容
東京事務所	東京都 品川区大崎	首都圏の大学等への当会事業の周知 公益事業活動の助成対象団体の情報収集 金融情報収集

(5) 重要な契約に関する事項

契約年月日 (契約期間)	相手方	契約金額	契約の概要
平成 31 年 4 月 1 日 (5 年間)	EY 税理士法人	1 年間 1,308,000 円	定期提出書類の作成支援および 会計等に関する相談業務

(6) 職員に関する事項

職名等	氏 名	就職年月日	担当事務
事務局長	山崎 壽浩	昭和 57. 4. 16	事務局総轄
管理部長	原 久晴	昭和 61. 4. 7	本部事務・会計・資料館管理
事業部長	荒井 能弘	平成 22. 9. 1	奨学金・研究助成金・庭園管理
一般事務	渡部 夕子	平成 2. 4. 1	東京事務所の事務・資料館管理
一般事務	山口 広美	平成 13. 2. 20	建物内管理・事務所庶務

(7) 役員会等に関する事項

① 理事会

開催年月日	議事事項	会議の結果
令和元. 5. 29	平成 30 年度事業報告・計算書類等承認について	可決
〃	第 8 回定時評議員会招集および提出議案について	可決
〃	平成 31 年度新規採用奨学生選考について	可決
〃	平成 31 年度学術研究助成について	可決
〃	平成 31 年度自然環境保護活動助成について	可決
〃	理事長および常務理事の職務執行状況の報告	了承
令和元. 8. 28	積立資産取扱規程の制定について	可決
〃	特定資産株式の取得について	可決
令和 2. 3. 25	令和元年度学術研究助成事業について	可決
〃	令和 2 年度事業計画の承認について	可決
〃	令和 2 年度予算の承認について	可決
〃	評議員選定委員選任について	可決
〃	次期評議員候補者の推薦について	可決
〃	「建物建設積立資金規程(観音堂)」について	可決
〃	選考委員 3 名辞任による 3 名選任について	可決
〃	理事長の職務執行状況の報告	了承

② 評議員会

開催年月日	議事事項	会議の結果
令和元. 6. 20	平成 30 年度事業報告の内容報告について	了承
〃	平成 30 年度計算書類等の承認について	可決
〃	理事の任期満了に伴う選任について	可決
〃	監事の任期満了に伴う選任について	可決

(8) 株式の保有状況

企業名	保有株式数	保有割合	企業との関係
JXTG ホールディングス(株)	3,800,000 株	0.11%	取引なし
北越メタル(株)	55,600 株	1.39%	取引なし

## 2 役員等に関する事項

### (1) 理事

役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬等	備考
理事長	山口敬太郎	2年	常勤	規程による	
常務理事	山崎 壽浩	2年	〃	〃	事務局長
理事	森地 茂	2年	非常勤	〃	
〃	若杉 敬明	2年	〃	〃	
〃	一色 誠一	2年	〃	〃	
〃	田波 耕治	2年	〃	〃	

### (2) 監事

役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬等	備考
監事	高橋 實	2年	非常勤	規程による	
〃	西尾 進路	2年	〃	〃	

### (3) 評議員

役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬等	備考
評議員	江中八洲彦	4年	非常勤	規程による	
〃	古瀬 裕	4年	〃	〃	
〃	福壽 道夫	4年	〃	〃	
〃	佐藤 浩治	4年	〃	〃	
〃	林 久	4年	〃	〃	
〃	岩野 宏	4年	〃	〃	
〃	大田 勝幸	4年	〃	〃	
〃	北原 傳	4年	〃	〃	

### (4) 役員等の報酬

区分	人数	報酬等の総額	備考
理事	6名	20,934千円	
監事	2	133	
評議員	8	133	
選考委員	11	311	
合計	27	21,511	

## 事業報告の附属明細書

### I 事業に関する記載事項

#### 1 育英奨学事業について

##### (1) 奨学金貸与者数および貸与額

区 分	継 続 奨学生	新採用 奨学生	貸与者 合計	奨学金貸与額 (千円)	奨学金返還免除額 (千円)
大学院生	4	4	8	4,550	950
大学生	62	25	87	51,000	10,250
短大生	2	1	3	1,800	350
高専生	0	0	0	0	0
留学生	11	5	16	6,350	850
合 計	79	35	114	63,700	12,400

##### (2) 奨学金返還者数および返還額

区 分	貸与奨学金返還者 (名)	返還額 (千円)
大学院生	34	6,522
大学生	162	47,344
短大生	0	0
高専生	4	1,066
高校生	7	529
留学生	33	6,552
合 計	240	62,013

##### (3) 奨学生集会

奨学生の指導・育成の目的で8月28日～29日（1泊2日）に開催した。

来賓による講演会と講話、元奨学生による演奏会と講話、役員との懇談、資料館の見学、小国和紙のワークショップを実施した。

宿舎では奨学生による懇談会を行った。

カリキュラムは次のとおりである。

参加学生 71名

## 実施内容

1日目	開会 理事長挨拶、役員紹介、学生自己紹介
	講演会 演題 「山口権三郎翁の足跡と長岡地域の発展」 松本 和明 氏 (京都産業大学経営学部 教授)
	講話 「企業の人事担当者から見た就職活動について」 鈴木 秀法 氏 (JXTG エネルギー株式会社人事部 副部長)
	バイオリン演奏会 高雄 敦子 (元奨学生)
	役員と学生との懇談
	奨学生の懇談会
2日目	郷土資料館、庭園の見学
	講話 「食虫植物ムジナモの話」 高橋 實 氏 (小国生物友の会 会長)
	講話 「箱根駅伝を通して学んだこと」 藤野 英之 (元奨学生)
	ワークショップ「小国和紙の紙漉きとうちわ作り」
	閉会 JR長岡駅へ移動、解散

### (4) その他

機関誌「山びこ」52号を刊行し、奨学生および元奨学生に配布した。

## 2 学術研究等助成事業について

### (1) 研究助成

指定校から推薦された次の研究に対して、各 800,000 円を上限とし、総額 16,000,000 円の助成金を交付した。

#### ① 東京工業大学 理学院 准教授 藤岡 宏之

研究題目 重陽子の光励起による  $\eta'$  中間子原子核の形成と、有限密度における  $\eta'$  中間子の質量変化の研究

#### ② 東京大学 生産技術研究所 教授 マイルス ペニンントン

研究題目 大規模展開可能な海洋観測デバイスおよびデータ収集システムの開発

- ③ 東京大学 大学院総合文化研究科 助教 簗口 友紀  
研究題目 ヘリウム二層固体の転位ダイナミクスと特異な力学応答—ヘリウムガラスの検証—
- ④ 東京大学 大気海洋研究所 助教 高木 俊幸  
研究題目 サンゴ抗菌ペプチドの機能解析とビブリオ感染症バイオマーカーとしての応用
- ⑤ 長岡工業高等専門学校 電気電子システム工学科 助教 和久井 直樹  
研究題目 AIを用いた錦鯉自動選別システム構築のための学習データセット整備
- ⑥ 長岡工業高等専門学校 助教 宮田 真理  
研究題目 バイオマス資源を活用したエコ吸水性材料の開発
- ⑦ 長岡技術科学大学 助教 高橋 一匡  
研究題目 イオン注入とアニールの同時プロセス実現に向けた電荷中和による大電流密度ビームの開発
- ⑧ 長岡技術科学大学 助教 戸田 智之  
研究題目 精密合成ゴム材料による新たな機能発現と物性との相関の解明
- ⑨ 山形大学 農学部 准教授 江成 広斗  
研究題目 豪雪地に生息する霊長類：ニホンザルの越冬生態の解明
- ⑩ 信州大学 学術研究院 理学系 教授 東城 幸治  
研究題目 日本列島の生物多様性創生の鍵を握るフォッサマグナ地域における動物の分子系統地理学的研究
- ⑪ 信州大学 准教授 高梨 功次郎  
研究題目 日本のマメ科高山植物と共生する根粒菌の起源と分布変遷の解明
- ⑫ 新潟大学 工学部 教授 堀 潤一  
研究題目 触覚刺激型ブレインコンピュータインターフェースの高性能化
- ⑬ 新潟大学 工学部 准教授 馬場 暁  
研究題目 簡便な表面プラズモン共鳴環境モニタリングシステムの検討

- ⑭ 新潟大学 工学部 准教授 大木 基史  
研究題目 高硬度・高じん性 WC-Ni 系複合皮膜の開発および皮膜形成メカニズム解明
- ⑮ 新潟大学 医歯学総合研究科 特任講師 緒方 元気  
研究題目 ダイヤモンドセンサを用いた血漿中の分子標的薬の迅速測定法の開発
- ⑯ 群馬大学 大学院理工学府 准教授 三浦 健太  
研究題目 Zn 過剰 ZnO 薄膜の新規発光メカニズムの究明と表面微細周期構造による発光効率改善に向けた基礎研究
- ⑰ 東北大学 助教 岡 大地  
研究題目 複合アニオン酸化物エピタキシャル合成技術の開発と光電変換素子への応用
- ⑱ 東北大学 大学院薬学研究科 助教 熊田 佳菜子  
研究題目  $sp^3$  炭素-水素結合官能基化による直截的な複素環骨格構築法の開発
- ⑲ 富山大学 大学院理工学研究部（都市デザイン学） 准教授 川崎 一雄  
研究題目 古地磁気・岩石磁気の手法による活火山地域の温泉の古代の熱史を探る研究
- ⑳ 秋田大学 大学院理工学研究科 講師 肖 英紀  
研究題目 Co-Zn-Cr-Mn 合金における自己組織的  $\beta$ -Mn ナノトラックアレイの形成とナノ空間に制限された磁気スキルミオンの直接観察
- (2) 自然環境保護活動助成  
自然環境保護活動に取り組む団体に対して、各 500,000 円を上限とし、総額 4,590,000 円の助成金を交付した。
- ① 特定非営利活動法人 湯沢みどりの会 担当者 南雲 實  
活動名 百年先の夢事業「きれいな地球を未来の子どもに」
- ② 東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻 担当者 茅根 創  
活動名 沖縄県本部町瀬底島サンゴ礁の保全と地域活性
- ③ 東京大学 富士癒しの森研究所 担当者 後藤 晋  
活動名 地域住民による誰もが親しめる森林空間・関連設備の整備活動

- ④ 特定非営利活動法人 新潟の科学・自然探偵団 担当者 坪川 紀夫  
活動名 わたしの学校にもサイエンス・サーカスがやってきた（中山間地の小規模校や離島の子ども達、及び障がい者や高齢者を対象とした出前型環境教育・科学技術理解促進活動）
- ⑤ 特定非営利活動法人 五泉トゲソの会 担当者 中村 吉則  
活動名 環境の見張り番トゲソの保全と「とばしっこ清水」の井戸修繕工事
- ⑥ 特定非営利活動法人 新潟水辺の会 担当者 相楽 治  
活動名 里潟五方良し・湖上活用浮きテラス島実験ワークショップ
- ⑦ NPO法人 関原里山・ぬかやま会 担当者 布川 清八  
活動名 里山「ぬか山」の環境保護（いのちの森、学びの森づくり）
- ⑧ Eco village SHELTER project 担当者 鈴木 梢  
活動名 里山の暮らしが息づくエコビレッジづくり～持続可能な森づくりと木材活用の普及事業～
- ⑨ 下村集落振興協議会 担当者 富田 邦夫  
活動名 下村・八石遊歩道（登山道）の補修・整備
- ⑩ 公益社団法人 日本植物園協会 担当者 倉重 祐二  
活動名 我が国の貴重な植物を保全するナショナルコレクション制度の推進
- (3) その他助成、支援事業  
学術研究等助成事業の「その他助成・支援事業」として 3,400,000 円を交付した。

- |                      |             |
|----------------------|-------------|
| ① 公益社団法人日本女子プロ将棋協会   | 1,000,000 円 |
| ② 一般社団法人地域ルネッサンス創造機構 | 1,000,000 円 |
| ③ 公益財団法人日本ナショナルトラスト  | 800,000 円   |
| ④ 公益財団法人日本ユースリーダー協会  | 600,000 円   |

(4) 自然環境保護活動報告会の開催

10月に「自然環境保護活動報告会」を開催し、平成30年度に助成金を交付した10団体のうち9団体が参加して、活動の成果について報告を行った。

(5) 学術研究助成報告会の開催

10月に「学術研究助成報告会」を開催し、平成30年度に助成金を交付した研究者18名のうち参加を依頼した5名が、研究の経過や成果について報告を行った。

3 資料館庭園運営管理事業について

(1) 当会の資料館および庭園を4月下旬から11月下旬まで一般公開し見学者を受け入れている。ガイド2名を交替で配置し案内や解説を行って見学者の便に供している。

見学者は年間1,556名であった。

(2) 当会所有の庭園および山林の遊歩道を散策しながら植物や野鳥、きのこを観察する会を4回開催した。植物については地元の同好会、野鳥については長岡野鳥の会、きのこについては長岡きのこ同好会の協力を得て実施した。合計67名の参加者があった。

(3) 前年度より建設工事を行っていた集会施設「山びこ館」が5月に完成した。

奨学生集会をはじめ当会の諸会議および各助成事業の報告会の会場として使用した。また長岡市主催の市民向けのセミナー会場に提供した。